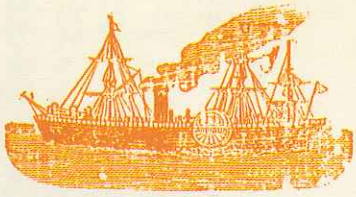
横濱毎日新聞

明治三年
創刊

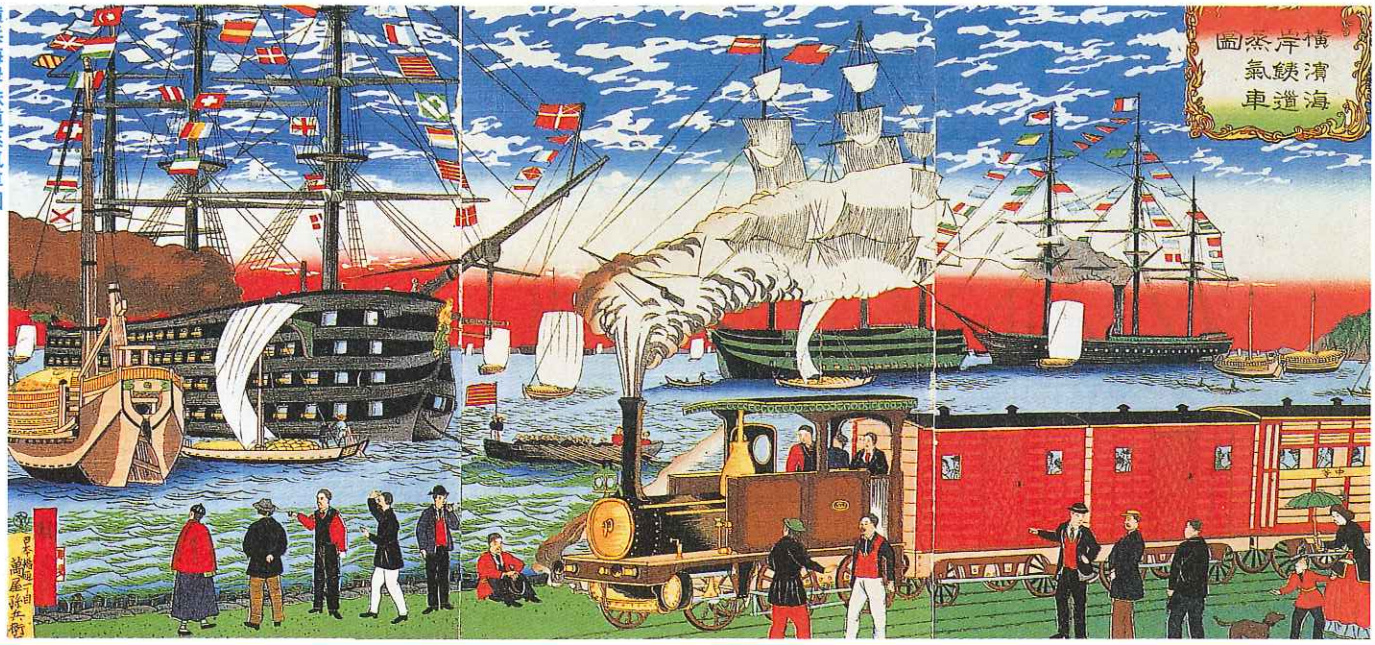
郵便蒸氣船



近代日本のあけぼのを
鮮やかに映し出す
日本最初の日刊新聞！

第一期
刊行中！

復刻版の刊行予定は、第一期を、明治三年十二月八日（創刊号）より『毎日新聞』改題前の明治十九年四月までとし、以後、第二期・第三期として、『毎日新聞』改題後の、明治十九年五月より明治三十九年六月までを継続刊行いたします。



横浜海岸鉄道蒸気車図

第一期
全四十五巻・別冊三
明治三年十二月～明治十九年四月

横浜毎日新聞

復刻版

第一期
本体揃価格＝870,000円

不二出版

横濱毎日新聞

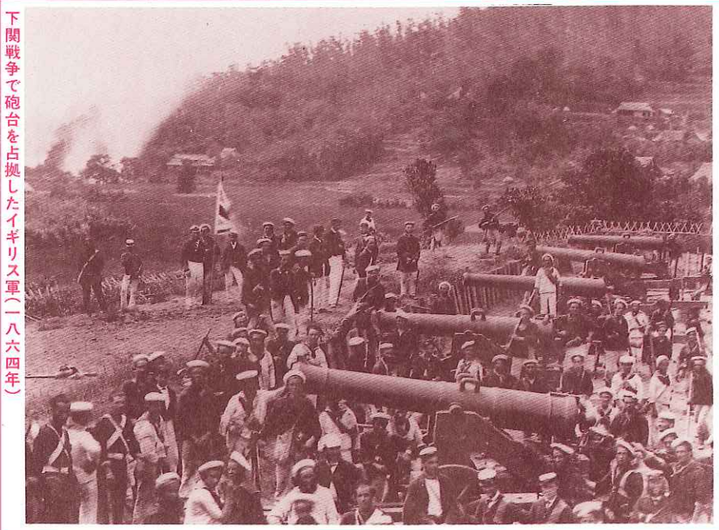
復刻にあたって

『横浜毎日新聞』は、明治三年十二月八日（新暦では一八七一年一月二十八日）日本で初めての日刊新聞として創刊された。

時の神奈川県令（知事）である井関盛艮が新聞の必要性を説き、横浜の有力商人達に資金を出させ設立した「横浜活版社」が発行元となっている。社長は島田豊寛、編集は子安峻（後に『読売新聞』を創刊）、印刷は陽其二（長崎で日本初の鉛活字を鋳造した本木昌三の弟子）による鉛活字を初めて使用した新聞の登場であった。

本紙は「商家の便利を第一」とうたい、横浜港出入りの船舶・輸出入品目・値段・両替相場など貿易情報に明るく、その購買層は主に横浜の商人達であったが、ほかに新聞がなかったこともあり、東京・神戸・大阪・長崎など広い範囲で読まれた。のちに編集人は島田三郎となり、明治十二（一八七九）年に嚶鳴社の沼間守一により『東京横浜毎日新聞』と改題され、社も東京に移転する。当時全国各地で日本最初の政治運動である自由民権運動がおこりつつあり、本紙は立憲改進党系の新聞として、折からの国会開設を求める動きに呼応した。

小社では、文明開化の時代をいきいきと伝え、自由民権期の政治と社会の状況を活写した本紙を、まず第一期として創刊号より一八八六年までの十六年分を復刻する。日本近代史・政治史・社会史・文化史の研究等に必須の基礎的資料として広く活用されることを願うものである。



下関戦争で砲台を占拠したイギリス軍（一八六四年）

明治の政党新聞一覧

自由党系――朝野新聞（一八七四年九月創刊）
日本立憲政党新聞（一八八二年二月創刊）
自由新聞（一八八二年六月創刊）
絵入自由新聞（一八八二年九月創刊）
自由灯（一八八四年五月創刊）

立憲改進党系――郵便報知新聞（一八七二年八月創刊・前島密）
読売新聞（一八七四年一一月創刊・子安峻）
大坂新報（一八七七年一二月創刊）
東京横浜毎日新聞（一八七九年一一月創刊・沼間守一）
『横浜毎日新聞』改題

立憲帝政党系――東京日日新聞（一八七二年三月創刊・福地桜痴）
明治日報（一八八一年七月創刊・丸山作楽）
東洋新報（一八八二年三月創刊）
大東日報（一八八二年四月創刊）

横浜毎日新聞 関連年表

一八五三・嘉永六　アメリカ人・ペリーが率いる黒船、浦賀来航
一八五九・五国と自由貿易始まる。函館・横浜開港
一八六〇・桜田門外の変
一八六二・生麦事件
・幕府、翻訳新聞『官板バタビヤ新聞』発行、初の日本語新聞
一八六三・下関事件。薩英戦争
一八六五・慶応一　ジョセフ・ヒコ、初の日本語民間新聞『海外新聞』を横浜にて発行。日本人に海外の情報を伝える
一八六八・明治一　王政復古の大号令
・戊辰戦争
・新政府、政策・布令を一般に知らせる『太政官日誌』（のちの『官報』）を発行
・江戸・横浜で『江湖新聞』など十数種の新聞が創刊される
・政府、出版物・新聞の無許可発行を禁止
・旧幕府擁護派新聞を禁止、江戸から新聞が消える
・新政府、新聞は必要と、発行条令を敷く。復刊・創刊あいつぐが、政府批判禁止で、多くは廃刊
一八七一・明治四　新暦1月28日、初めての日刊新聞『横浜毎日新聞』発行。鉛活字を使用
・東京で木戸孝允の後援により木版活字の『新聞雑誌』発行
・各地方にも新聞の創刊、あいつぐ
一八七二・東京で日刊新聞『東京日日新聞』発行
・マリア・ルーズ号事件
・前島密『郵便報知新聞』創刊
・太陽暦を採用。新橋・横浜間鉄道開業
一八七三・江華島事件
一八七五・新聞紙条例。言論取り締まりの強化
一八七七・西南戦争
一八七九・沼間守一らの嚶鳴社、『嚶鳴雑誌』創刊
・沼間、『横浜毎日新聞』を買収。11月18日、同紙『東京横浜毎日新聞』に改題。東京に移転
一八八一・『東洋自由新聞』創刊。社長・西園寺公望、主筆・中江兆民
・開拓使官有物払下げ事件
・自由党結成。総裁・板垣退助
一八八二・壬午事変
・立憲改進党結成。総理・大隈重信
一八八四・加波山事件。秩父事件
一八八五・内閣制度確立
一八八六・五月、『東京横浜毎日新聞』を『毎日新聞』に改題
一九〇六・七月、『毎日新聞』、『東京毎日新聞』に改題

官許横濱毎日新聞

横浜毎日新聞　創刊号
明治三年十二月八日号　第一面

横濱活版社

横濱毎日新聞

第壹號　明治三年庚午十二月八日

新聞紙の專務ハ四民中外貿易の基本を立て皆自商法の活眼を開かしめんが爲め本社ノ因て設けし所也所謂商事の報元ハ全世界の動靜を計り遠近之物價を參述し彼我の有無を公整する術を爲す者也此道只外國交際の上なる而已然るにあらず皇國内諸港ノ形勢を考涉して商理之存する所を四海に較著し諸民之智識を發達するハ此新聞紙之大功用に在て我が活板社の誠に企望する所也

庚午十年十二月

社長　伏栗

新聞告白

此新聞紙の便利を第一に致すに付正月松の内丑節句氏神まつり毎月朔望の外ハ家タ摺立翌朝賣出し可申候○引札の儀ハ四字過に當局へ可申四字迄に當局へ相廻し可申ハ○延日諸具差越候分ハ其日摺出の分ハ翌日の出板より相廻し可申候○可申候○

全備ノ上ハ一月六度ノ金港新聞賣出し可申候

尤取次賴越候方ハ買主へハ高に毎朝當局より差くバり可申候

其最寄り取次所より直に遣置きハ間遠方の買人

段紙聞新

一壹半年百二百四拾目　一日壹匁　三月廿六日拾四匁　八匁

右代銀前拂

段直札引

［推薦の言葉］五十音順

民権派言論の一翼を担った新聞

内川芳美［成蹊大学文学部教授］

『横浜毎日新聞』は、周知の通り日本最初の日刊新聞である。どの国の場合もそうだが、日刊新聞の登場は、新聞の歴史はもとより、社会史や文化史の上で、近代化の進展をはかる基本的な指標のひとつといえる。その意味で、『横浜毎日新聞』がいかなる新聞であったか、何を伝えたかは、専門家ならずとも興味をそそられる点であろう。

『横浜毎日新聞』は、当初は貿易商況記事を主としていたが、やがて政論新聞時代の展開と共に政治性を帯びていき、明治十二年十一月、嚶鳴社のリーダー沼間守一が譲り受けて、発行地を横浜から東京に移し、名も『東京横浜毎日新聞』と改め、民権派言論の一翼を担うに至り、俄然注目を集めた。『東京日日新聞』に拠っていた官権派の領袖福地源一郎は、『東京横浜毎日新聞』の出現を「東京の新聞社会に一大敵国を得たるの感あり」とのべている。

政府が国会開設を約束した明治十四年政変の発端は、いうまでもなく北海道開拓使官有物払下げをめぐるスキャンダルであったが、これを最初に暴露したのも『東京横浜毎日新聞』だった。同紙がこのあとの政党運動の展開過程で、立憲改進党の中央機関紙として活躍したことはよく知られている。

このような『横浜毎日新聞』の復刻版の刊行は、日本近代史研究に新たな、かつ価値ある資料的便宜を加える事業として、極めて大きな意義があるといってよい。（うちかわ・よしみ）

明治政治史の貴重な資料

北根　豊［新聞研究家］

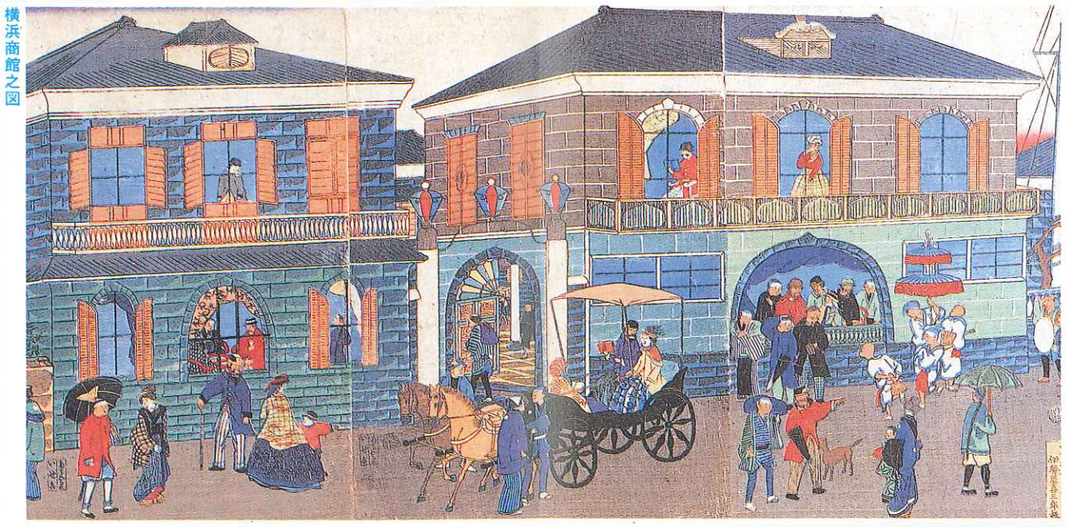
このたび不二出版から、明治三年十二月八日創刊で、わが国最初の日刊紙である『横浜毎日新聞』の復刻版全百四十九巻が刊行されることになった。この新聞の創刊については、戦前から論争が続けられてきたが、昭和三十九年、群馬県の旧家から現物が発見されたことによって、その論争は終結した。なお付け加えるならば、その創刊号は、国立国会図書館に収められている。

この新聞が本格的に明治言論界に登場するのは、明治十二年十一月、嚶鳴社を主宰する沼間守一に買収されて東京に本拠を移して『東京横浜毎日新聞』と改題した以後である。その当時『東京日日新聞』を主宰していた福地桜痴に「一大敵国が出現した」とまでにいわせしめた、東京への進出であった。

今回の復刻は、初期の頃の原紙が未だ完全揃いでないことを鑑みて、明治七年から刊行が開始される。『横浜毎日新聞』の社告は、明治十年六月二十六日現在、同社には創刊号以下の原紙所蔵がなかったことを告白している。したがって現在、明治三年から六年にかけての原紙の確認と収集がはなはだ困難であることを認めざるをえないのが現状である。

しかしながら、不二出版はかねてから幻といわれていた雑誌『中外』の発掘を含めて、これまで数々の復刻版をわれわれに提供してくれた。今回の『横浜毎日新聞』の復刻版刊行は、明治政治史の貴重な資料のひとつとして評価されるべき大きな史料であろうと思われる。大方の活用を期待したい。（きたね・ゆたか）

生麦事件（一八六二年）の現場



横浜商館之図

箱根宿

価値ある〝幻の新聞〟の復刻

羽島知之［新聞資料ライブラリー代表］

『横浜毎日新聞』は、わが国最初の日刊新聞という特筆すべき新聞でありながら、創刊から初期の実物が発見されていなかったために、創刊日はもとより、その題号について「創刊当初は『横浜新聞』と称し、のちに『横浜毎日新聞』と改題された」という改題説と「創刊当初から『横浜毎日新聞』であった」という説とがあり、戦前、戦後を通して発行された幾多の新聞歴史書や年表にも、この両説が入りみだれて登場していた。

この疑問を解決すべく、東京大学明治新聞雑誌文庫の主任宮武外骨氏は、昭和の初めに『横浜毎日新聞』の現物を求めて「明治三年十二月のものなら一枚十円でも二十円でもよい。四年四月十五日前のものでも一枚五円以上で購入する」と出入りの業者に高額を提示して煽ったが、存命中ついに一枚も発見することができず、長年にわたり〝幻の新聞〟の代表だった。

それから三十年余り経た昭和三十三年に、京都の収集家により明治四年正月二十日付の第二十九号が発見され、創刊当初から『横浜毎日新聞』の題号であったことが確認された。ついで昭和三十七年に五日あとの三十四号（私蔵）が、そして昭和三十九年八月には待望の第一号が群馬県の旧家から発見され、創刊日も実証された。

このような経緯をもつ『横浜毎日新聞』が、このたび所蔵機関の協力を得て、不二出版から復刻されることはまことに喜ばしい。資料価値は超一級であり、これからも欠号の発掘に努力して行きたい。（はじま・ともゆき）

明治期の経済・社会動向を知るために有用な資料

服部一馬［横浜市立大学名誉教授］

明治三年十二月八日（陰暦）創刊の『横浜毎日新聞』は我国最初の日刊紙で、「四民中外の貿易の基本を立て皆自商法の活眼を開かしめん」ことを目標に、「商家の便利を第一」とする方針に基づいて発行された。はじめは二ページ立て（洋紙一枚の両面刷）で、紙面の大部分を、おもに横浜における貿易・海運・両替相場等の日々の動向を伝える記事と内外の会社・商店の広告で占めた。四年六月ごろには紙面を四ページにふやし、さらに九年九月なかばには小活字の組版に改めて、記事の充実と多様化を進め、社論や投書等も掲載するようになった。

十二年十一月上旬にいたり、沼間守一が同紙を買収し社長につくとともに、編集局を東京へ移し、紙名も『東京横浜毎日新聞』と改めた。以後は嚶鳴社―改進党系機関紙としての色彩を強めたが、貿易を中心とする経済関係の情報は引き続き重視されたようである。

以上の甚だ不十分な概観によっても、『横浜毎日新聞』が明治前期の経済的・社会的動向を研究するために、きわめて有用な史料であることを推察できよう。にもかかわらず、これまで同紙があまり活用されなかったのは、コピーを含めても同紙を収蔵する研究機関がきわめて少なく、しかも、とくに初期の分がごく一部を除き未発見の状態にあるためである。したがって、不二出版による復刻版の刊行は、より多くの研究者が同紙の史料的価値をあらためて確認し、それを有効に活用する契機となるに違いない。

私は近代日本経済史研究者のひとりとして、このたびの計画に全面的に賛同し、その完遂を切望するとともに、この機会に未発見分が可能な限り探しだされることを大いに期待している。（はっとり・かずま）

千九百七十七

東京横濱毎日新聞

定時刊行

明治十四年七月廿六日　火曜日　第三千百八拾三號

大藏省錄事

○甲第九拾七號

金祿公債證書　五百圓內ゝ號四〇〇四番　壹枚

右ハ靜岡縣七族山本郎記名ノ分相違人保有ヨリ東京府平民大山安兵衛ハ預ケ中受領兵衛失除請狀紛失ノ旨屆出候然以後有證書一切無引ヲ爲メ可且其所往見聞ノ者ハ速ニ管轄廳ヘ訴出管轄廳ヨリハ即當省ヘ可屆出此旨布達候事

明治十四年七月廿五日　大藏卿侯爵野村靖

○甲第九拾八號

金祿公債證書

五百圓內ゝ號四七八〇〇番、四八壹貳番、貳枚。三百圓內ゝ號六〇五四番、五六九〇〇番、六九九四〇〇番、七八〇〇四番、七八〇〇番、七八〇〇〇番、八八四〇〇番、八八八四番、八八八四番）四枚。百圓內ゝ號壹四八番、四七〇四番、四七〇〇番、四七〇〇番、四七〇〇

東京横濱毎日新聞

横浜毎日新聞

第二期復刻版概要

体裁
A4判・上製・函入 約二〇、〇〇〇ページ

本体揃価格
八七〇、〇〇〇円〈別冊のみ分売可〉

神名川横浜新開港図

続刊予定

第二期—第四六巻〜第九二巻・別冊
（明治九年五月〜明治二九年二月分を収録）
揃予価＝九六六、〇〇〇円

第三期—第九三巻〜第一四九巻・別冊
（明治三〇年一月〜明治三九年六月分を収録）
揃予価＝一、一三四、〇〇〇円

第二期・第三期『毎日新聞』と改題

継続購入受付中！

第二期配本予定

	発行年	配本	本体価格
第一回—第七巻〜第九巻	明治七年一月〜一二月	一九八九年五月	五四、〇〇〇円
第二回—第一〇巻〜第一三巻	明治八年一月〜一二月	一九八九年九月	七二、〇〇〇円
第三回—第一四巻〜第一七巻	明治九年一月〜一二月	一九九〇年一月	七二、〇〇〇円
●配本年度別合計価格 一九八九年度（第一〜三回配本）—合計一九八、〇〇〇円			
第四回—第一八巻〜第二〇巻	明治一〇年一月〜一二月	一九九〇年四月	五四、〇〇〇円
第五回—第二一巻〜第二三巻	明治一一年一月〜一二月	一九九〇年七月	五四、〇〇〇円
第六回—第二四巻〜*第二六巻	明治一二年一月〜一二月	一九九〇年一〇月	五四、〇〇〇円
第七回—第二七巻〜第二九巻	明治一三年一月〜一二月	一九九一年一月	五四、〇〇〇円
●配本年度別合計価格 一九九〇年度（第四〜七回配本）—合計一二六、〇〇〇円			
第八回—第三〇巻〜第三二巻	明治一四年一月〜一二月	一九九一年四月	五四、〇〇〇円
第九回—第三三巻〜第三五巻	明治一五年一月〜一二月	一九九一年七月	五四、〇〇〇円
第一〇回—第三六巻〜第三八巻	明治一六年一月〜一二月	一九九一年一〇月	五四、〇〇〇円
第一一回—第三九巻〜第四一巻	明治一七年一月〜一二月	一九九二年一月	五四、〇〇〇円
●配本年度別合計価格 一九九一年度（第八〜一一回配本）—合計一二六、〇〇〇円			
第一二回—第四二巻〜第四四巻	明治一八年一月〜一二月	一九九二年四月	五四、〇〇〇円
第一三回—第四五巻	明治一九年一月〜四月	一九九二年七月	七二、〇〇〇円
第一巻〜第三巻	明治三年一二月〜明治五年一二月		
第一四回—第四巻〜第六巻	明治六年一月〜一二月	一九九二年一〇月	五四、〇〇〇円
第一五回—別冊（全三巻）		一九九三年一月	六〇、〇〇〇円
解説（甘利璋八）・総目次・執筆者索引			
●配本年度別合計価格 一九九二年度（第一二〜一五回配本）—合計二四〇、〇〇〇円			

＊—第二六巻、明治一二年一一月一八日より『東京横浜毎日新聞』と改題

●本紙の紙名は、明治三年一二月八日（創刊）より明治一二年一一月一六日まで『横浜毎日新聞』、同年同月一八日から明治一九年四月三〇日まで『東京横浜毎日新聞』、同年五月一日から明治三九年六月三〇日まで『毎日新聞』と変遷しております。

●今回の復刻にあたっては、国立国会図書館、東京大学明治新聞雑誌文庫、横浜開港資料館の各機関及び羽島知之氏にご協力をいただき原紙の探索に力を尽くしましたが、明治三年一二月から明治六年一月発行の原本には欠号が多数あります。お心あたりの方はぜひ小社までご一報下さい。

●写真および「横浜絵」提供——横浜開港資料館

●写真——『F・ベアト幕末日本写真集』より

●本カタログ中の表示価格は、全て消費税を含んでおりません。

●弊社は注文制です。お近くの書店にご注文ください。

不二出版

東京都文京区向丘一—二—一二
TEL ○三（八一二）四四三三
FAX ○三（八一二）四四六四
振替〈東京〉六—九四〇八四

明治三年
創刊

『横浜毎日新聞』改題

毎日新聞

復刻版

『横浜毎日新聞』第二期
本体揃価格＝940、000円

第二期
刊行開始！

第一期＝『横浜毎日新聞』『東京横浜毎日新聞』完結！
本紙は、明治三年創刊の『横浜毎日』が同一二年に『東京横浜毎日新聞』に改題したものを、同一九年五月に『毎日新聞』と改題し同三九年六月まで刊行されたもので、号数も継承しております。

横浜海岸通之図

『横浜毎日新聞』第二期
全四十七巻
明治一九年五月～明治二九年二月

足尾鉱毒事件、日露開戦反対、廃娼、社会主義への共感、政治汚職弾劾――帝国主義を排し、民主国会・社会を目ざしたリベラリスト＝島田三郎の編集による社会派総合新聞。
激動する十九世紀末の日本を記録する『横浜毎日新聞』『東京横浜毎日新聞』の改題継続紙の復刻版！

不二出版

復刻の辞

本紙『毎日新聞』の前身紙『横浜毎日新聞』は、明治三年一二月(新暦では一八七一年一月)日本で初めての日刊新聞として創刊された。『横浜毎日新聞』は貿易情報に明るく購買層は主に横浜の商人達であったが、自由民権運動が盛んになり、政党新聞が数多く出現したのに呼応し、一八七九年拠点を東京に移し『東京横浜毎日新聞』と改題して、嚶鳴社の沼間守一主宰による立憲改進党系の新聞として再出発する。小社では、『横浜毎日新聞』『東京横浜毎日新聞』を第一期として復刻したのに続き、今回、前記二紙の後継紙『毎日新聞』を継続復刻する。

『毎日新聞』は、一八八六年、条約改正・国会開設を控え、再び政治運動が活発化する時代に『東京横浜毎日新聞』を改題し号数を継承して創刊された。以後一九〇六年に『東京毎日新聞』に改題されるまでの二〇年間、ナショナリズムが台頭し帝国主義の時代を迎える日本社会で社会改良運動の旗手として論陣を張った。

本紙は、沼間の没後は肥塚竜が社長兼主筆となり、のちに島田三郎が社務一切を引き受けた。島田のもとには石川安次郎や木下尚江がおり、とくに廃娼運動には力が注がれた。また東京市の疑獄事件糾弾、足尾鉱毒事件の罹災者救援、横山源之助の下層民に関するレポート掲載、勃興する労働運動・社会主義運動への共感、日露戦争反対など、つねに人権と反戦の配慮を示したジャーナリズムとして特筆すべきものがある。

一九世紀末から二〇世紀初頭の激動する世界情勢・国内情勢に揺れる日本社会を記録する第一級資料として、本紙を第二期として一八八六年から九六年までを復刻する。『横浜毎日新聞』『東京横浜毎日新聞』に続き、日本近代史・政治史・文化史等の研究に大いに寄与する基本文献である。

島田三郎

沼間守一

横浜毎日新聞 関連年表

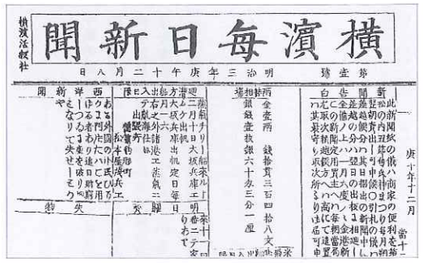
- 一八五三・嘉永六 アメリカ人・ペリーが率いる黒船、浦賀来航
- 一八五九 五国と自由貿易始まる。函館・横浜開港
- 一八六五・慶応一 ジョセフ・ヒコ、初の日本語民間新聞『海外新聞』を横浜にて発行。日本人に海外の情報を伝える
- 一八六八・明治一 王政復古の大号令
- 江戸・横浜で『江湖新聞』など十数種の新聞が創刊される
- 政府、出版物・新聞の無許可発行を禁止
- 旧幕府擁護派新聞を禁止、江戸から新聞が消える
- 一八六九 新政府、新聞は必要と、発行条令を敷く。復刊・創刊あいつぐが、政府批判禁止で、多くは廃刊
- 一八七一・明治四 新暦1月28日、初めての日刊新聞『横浜毎日新聞』発行。鉛活字を使用
- 各地方にも新聞の創刊、あいつぐ
- 一八七五 新聞紙条例。言論取り締まりの強化
- 一八七七 西南戦争
- 一八七九 沼間守一らの嚶鳴社、『嚶鳴雑誌』創刊
- 沼間、『横浜毎日新聞』を買収。11月18日、同紙『東京横浜毎日新聞』に改題。東京に移転
- 一八八一 開拓使官有物払下げ事件
- 自由党結成。総裁・板垣退助
- 一八八二 『東京日日新聞』との間で主権の所在をめぐる論争
- 立憲改進党結成。総理・大隈重信
- 一八八四 加波山事件。秩父事件
- 一八八六 五月、『東京横浜毎日新聞』を『毎日新聞』に改題
- 一八八七 三大事件建白書提出
- 一八八九 大日本帝国憲法発令
- 島田三郎、前橋市で演説「公娼の害を論ず」
- 一八九〇 教育ニ関スル勅語発布
- 第一通常議会(第一回帝国議会)召集
- 一八九一 群馬県で廃娼令公布
- 一八九二 『万朝報』創刊
- 一八九三 『二六新報』(第一次)創刊
- 一八九四 日清戦争
- 一八九六 横山源之助による下層民に関するレポートの連載開始
- 一八九九 横山源之助著『日本之下層社会』出版
- 一九〇〇 『二六新報』(第二次)再刊
- 東京市疑獄事件
- 木下尚江、足尾鉱毒罹災地へ現地取材、社説になる
- 一九〇一 星亨、暗殺される
- 一九〇四 日露開戦の動きに非戦論を展開
- 反戦小説・木下尚江著「火の柱」を連載
- 一九〇六 七月、『毎日新聞』、『東京毎日新聞』に改題

横浜毎日新聞

第一期復刻版概要

体裁
A4判・上製・約一二〇、〇〇〇ページ

本体揃価格
八七〇、〇〇〇円(別冊のみ分売可)
(税込定価八九六、一〇〇円)



横濱毎日新聞

明治三年庚午十二月八日

第一期配本概要

		原本の発行年月	本体価格
第一回	第七巻〜第九巻	●明治七年一月〜一二月	五四、〇〇〇円
第二回	第一〇巻〜第一三巻	●明治八年一月〜一二月	七二、〇〇〇円
第三回	第一四巻〜第一七巻	●明治九年一月〜一二月	七二、〇〇〇円
第四回	第一八巻〜第二〇巻	●明治一〇年一月〜一二月	五四、〇〇〇円
第五回	第二一巻〜第二三巻	●明治一一年一月〜一二月	五四、〇〇〇円
第六回	第二四巻〜*第二六巻	●明治一二年一月〜一二月	五四、〇〇〇円
第七回	第二七巻〜第二九巻	●明治一三年一月〜一二月	五四、〇〇〇円
第八回	第三〇巻〜第三二巻	●明治一四年一月〜一二月	五四、〇〇〇円
第九回	第三三巻〜第三五巻	●明治一五年一月〜一二月	五四、〇〇〇円
第一〇回	第三六巻〜第三八巻	●明治一六年一月〜一二月	五四、〇〇〇円
第一一回	第三九巻〜第四一巻	●明治一七年一月〜一二月	五四、〇〇〇円
第一二回	第四二巻〜第四四巻	●明治一八年一月〜一二月	五四、〇〇〇円
第一三回	第四五巻	●明治一九年一月〜四月	七二、〇〇〇円
	第一巻〜第三巻	●明治三年一二月〜明治五年一二月	
第一四回	第四巻〜第六巻	●明治六年一月〜一二月	五四、〇〇〇円
第一五回	別冊(全三巻) 解説(甘利璋八)・総目次		六〇、〇〇〇円

*第二六巻、明治一二年一一月一八日より『東京横浜毎日新聞』と改題

二六新報

復刻版概要

体裁
B4判・上製・約一八、〇〇〇ページ

本体揃価格
九六〇、〇〇〇円
(税込定価九八八、八〇〇円)

各配本毎
八〇、〇〇〇円
(税込定価八一四〇〇円)

東京二六新報

配本予定

		原本の発行年月	配本
第一回	第一巻〜第四巻	●明治二六年一〇月〜二七年九月	一九九二年六月
第二回	第五巻〜第八巻	●明治二七年一〇月〜二八年六月* 明治三三年二月〜九月	一九九二年一二月
第三回	第九巻〜第一二巻	●明治三三年一〇月〜三四年九月	一九九三年六月
第四回	第一三巻〜第一六巻	●明治三四年一〇月〜三五年九月	一九九三年九月
第五回	第一七巻〜第二〇巻	●明治三五年一〇月〜三六年九月	一九九三年一二月
第六回	第二一巻〜第二四巻	●明治三六年一〇月〜三七年九月**	一九九四年六月
第七回	第二五巻〜第二八巻	●明治三七年一〇月〜三八年九月	一九九四年九月
第八回	第二九巻〜第三二巻	●明治三八年一〇月〜三九年九月	一九九四年一二月
第九回	第三三巻〜第三六巻	●明治三九年一〇月〜四〇年九月	一九九五年六月
第一〇回	第三七巻〜第四〇巻	●明治四〇年一〇月〜四一年六月	一九九五年九月
第一一回	第四一巻〜第四四巻	●明治四一年七月〜四二年三月	一九九五年一二月
第一二回	第四五巻〜第四八巻	●明治四二年四月〜一一月***	一九九六年六月

*創刊から二年足らずの明治28年6月11日、経営難により一旦休刊するが、明治33年2月1日、号を継承して再刊。
** 政府の弾圧により明治37年4月15日(復刻版では第23巻)より『東京二六新聞』に改題・改号。
*** 明治42年12月1日より紙名を再び『二六新報』に復す。以後続けて復刻刊行予定。

横浜毎日新聞

第二期『毎日新聞』復刻版概要

体裁
A4判・上製・約一七、〇〇〇ページ

本体揃価格
九四〇、〇〇〇円
（税込定価＝九六八、二〇〇円）

横浜商館之図

既刊
第一期―第一巻～第四五巻・別冊三
（前身紙『横浜毎日新聞』『東京横浜毎日新聞』の明治三年二月～明治一九年四月分を収録）
本体揃価格＝八七〇、〇〇〇円
（税込定価＝八九六、一〇〇円）

続刊予定
第三期―第九三巻～第一四九巻
（明治三〇年一月～明治三九年六月分を収録）
揃予価＝一、二三四、〇〇〇円
（税込予価＝一、二七一、〇二〇円）

第二期配本予定

	原本の発行年月	配本	本体価格
第一六回	第四六巻～第四八巻	明治一九年五月～一二月	一九九三年四月	六〇、〇〇〇円
第一七回	第四九巻～第五二巻	明治二〇年一月～一二月	一九九三年七月	八〇、〇〇〇円
第一八回	第五三巻～第五六巻	明治二一年一月～一二月	一九九三年一〇月	八〇、〇〇〇円
第一九回	第五七巻～第六〇巻	明治二二年一月～一二月	一九九四年一月	八〇、〇〇〇円

●配本年度別合計価格　一九九三年度（第一六～一九回配本）―合計三〇〇、〇〇〇円

第二〇回	第六一巻～第六四巻	明治二三年一月～一二月	一九九四年四月	八〇、〇〇〇円
第二一回	第六五巻～第六八巻	明治二四年一月～一二月	一九九四年七月	八〇、〇〇〇円
第二二回	第六九巻～第七二巻	明治二五年一月～一二月	一九九四年一〇月	八〇、〇〇〇円
第二三回	第七三巻～第七六巻	明治二六年一月～一二月	一九九五年一月	八〇、〇〇〇円

●配本年度別合計価格　一九九四年度（第二〇～二三回配本）―合計三二〇、〇〇〇円

第二四回	第七七巻～第八〇巻	明治二七年一月～一二月	一九九五年四月	八〇、〇〇〇円
第二五回	第八一巻～第八四巻	明治二八年一月～八月	一九九五年七月	八〇、〇〇〇円
第二六回	第八五巻～第八八巻	明治二八年九月～明治二九年四月	一九九五年一〇月	八〇、〇〇〇円
第二七回	第八九巻～第九二巻	明治二九年五月～一二月	一九九六年一月	八〇、〇〇〇円

●配本年度別合計価格　一九九五年度（第二四～二七回配本）―合計三二〇、〇〇〇円

●本紙の紙名は、明治三年一二月八日（創刊）より明治一二年一一月一六日まで『横浜毎日新聞』、同年同月一八日から明治一九年四月三〇日まで『東京横浜毎日新聞』、同年五月一日から明治三九年六月三〇日まで『毎日新聞』と変遷しております。なお本紙は、現在発行されている全国紙『毎日新聞』とは別のものです。

●「横浜絵」提供――横浜開港資料館

追記
横浜毎日新聞第二期『毎日新聞』（明治一九年五月～同二九年一二月）には、第四六巻（第一六回配本）巻頭に「解説」が付きます。解説者は門奈直樹氏（立教大学教授）です。

継続購入受付中！

●本カタログ中の表示価格は、全て消費税を含んでおりません。
●弊社は注文制です。お近くの書店にご注文ください。

不二出版
東京都文京区向丘一―二―一二
TEL ○三（三八一二）四四三三
FAX ○三（三八一二）四四六四
振替〈東京〉六―九四〇八四

明治三年
創刊

『横浜毎日新聞』改題

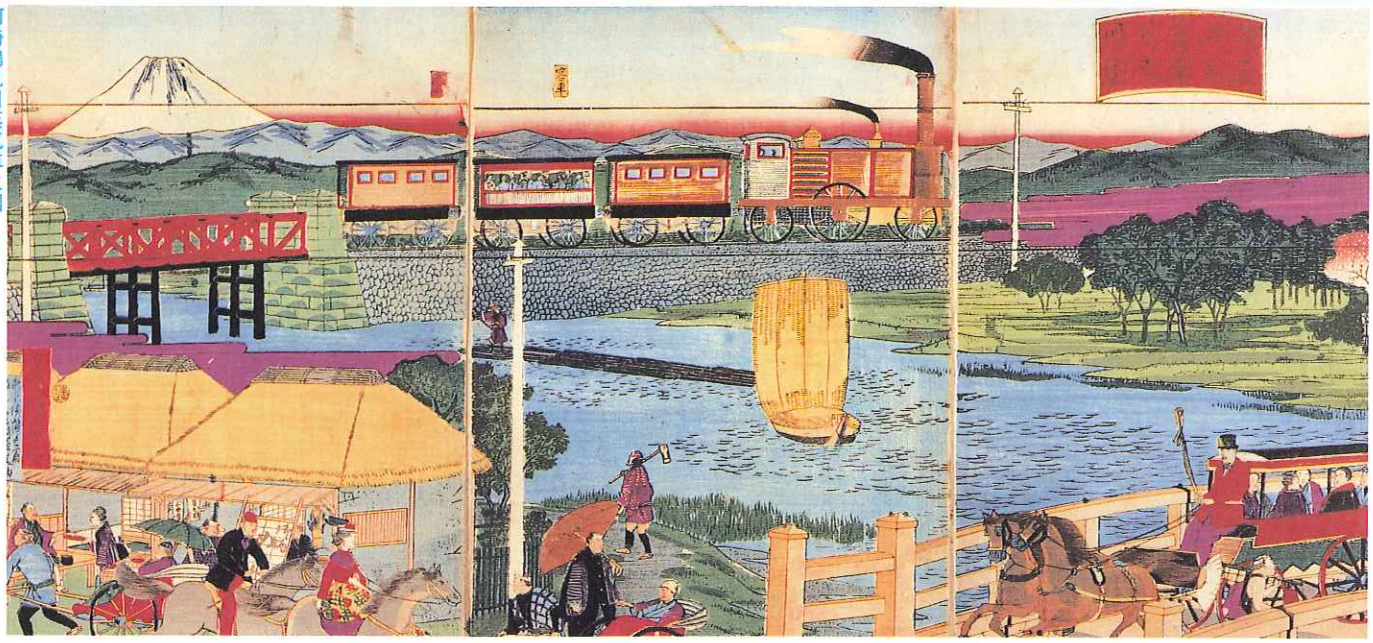
毎日新聞

復刻版

『横浜毎日新聞』第三期
本体揃価格＝1、140、000円

第三期刊行開始！

第三期にて完結
第一期＝『横浜毎日新聞』『東京横浜毎日新聞』
（明治3年12月～明治19年4月）
第二期＝『毎日新聞』（明治19年5月～明治29年12月）
第三期＝『毎日新聞』（明治30年1月～明治39年6月）



河崎鶴見川蒸気車之図

『横浜毎日新聞』第三期
全五十七巻
明治三〇年一月～明治三九年六月

足尾鉱毒事件、日露開戦反対、廃娼、社会主義への共感、政治汚職弾劾――
帝国主義を排し、民主国会・社会を目ざしたリベラリスト＝島田三郎の編集による社会派総合新聞。
激動する十九世紀末の日本を記録する『横浜毎日新聞』『東京横浜毎日新聞』の改題継続紙の復刻版！

本紙は、明治三年創刊の『横浜毎日新聞』が同一二年に『東京横浜毎日新聞』に改題したものを、同一九年五月に『毎日新聞』と改題し同三九年六月まで刊行されたもので、号数も継承しております。

不二出版

復刻の辞

本紙『毎日新聞』の前身紙『横浜毎日新聞』は、明治三年一二月(新暦では一八七一年一月)日本で初めての日刊新聞として創刊された。『横浜毎日新聞』は貿易情報に明るく購買層は主に横浜の商人達であったが、自由民権運動が盛んになり、政党新聞が数多く出現したのに呼応し、一八七九年拠点を東京に移し『東京横浜毎日新聞』と改題して、嚶鳴社の沼間守一主宰による立憲改進党系の新聞として再出発する。小社では、『横浜毎日新聞』『東京横浜毎日新聞』を第一期として復刻したのに続き、今回、前記二紙の後継紙『毎日新聞』を継続復刻する。

『毎日新聞』は、一八八六年、条約改正・国会開設を控え、再び政治運動が活発化する時代に『東京横浜毎日新聞』を改題し号数を継承して創刊された。以後一九〇六年に『東京毎日新聞』に改題されるまでの二〇年間、ナショナリズムが台頭し帝国主義の時代を迎える日本社会で社会改良運動の旗手として論陣を張った。

本紙は、沼間の没後は肥塚竜が社長兼主筆となり、のちに島田三郎が社務一切を引き受けた。島田のもとには石川安次郎や木下尚江がおり、とくに廃娼運動には力が注がれた。また東京市の疑獄事件糾弾、足尾鉱毒事件の罹災者救援、横山源之助の下層民に関するレポート掲載、勃興する労働運動・社会主義運動への共感、日露戦争反対など、つねに人権と反戦の配慮を示したジャーナリズムとして特筆すべきものがある。

一九世紀末から二〇世紀初頭の激動する世界情勢・国内情勢に揺れる日本社会を記録する第一級資料として、本紙を第三期として一八九七年から一九〇六年までを復刻する。『横浜毎日新聞』『東京横浜毎日新聞』に続き、日本近代史・政治史・文化史等の研究に大いに寄与する基本文献である。

沼間守一

島田三郎

横浜毎日新聞 関連年表

- 一八五三 嘉永六・アメリカ人・ペリーが率いる黒船、浦賀来航
- 一八五九・五国と自由貿易始まる。函館・横浜開港
- 一八六五 慶応一・ジョセフ・ヒコ、初の日本語民間新聞『海外新聞』を横浜にて発行。日本人に海外の情報を伝える
- 一八六八 明治一・王政復古の大号令
  - 江戸・横浜で『江湖新聞』など十数種の新聞が創刊される
  - 政府、出版物・新聞の無許可発行を禁止
  - 旧幕府擁護派新聞を禁止、江戸から新聞が消える
- 一八六九・新政府、新聞は必要と、発行条令を敷く。復刊・創刊あいつぐが、政府批判禁止で、多くは廃刊
- 一八七一 明治四・新暦1月28日(旧暦明治3年12月8日)、初めての日刊新聞『横浜毎日新聞』発行。鉛活字を使用。
  - 各地方にも新聞の創刊、あいつぐ
- 一八七五・新聞紙条例。言論取り締まりの強化
- 一八七七・西南戦争
- 一八七九・沼間守一らの嚶鳴社、『嚶鳴雑誌』創刊
  - 沼間、『横浜毎日新聞』を買収。11月18日、同紙『東京横浜毎日新聞』に改題。東京に移転
- 一八八一・開拓使官有物払下げ事件
  - 自由党結成。総裁・板垣退助
- 一八八二・『東京日日新聞』との間で主権の所在をめぐる論争
  - 立憲改進党結成。総理・大隈重信
- 一八八四・加波山事件。秩父事件
- 一八八六・五月、『東京横浜毎日新聞』を『毎日新聞』に改題
- 一八八七・三大事件建白書提出
- 一八八九・大日本帝国憲法発令
  - 島田三郎、前橋市で演説「公娼の害を論ず」
- 一八九〇・教育ニ関スル勅語発布
  - 第一通常議会(第一回帝国議会)召集
- 一八九一・群馬県で廃娼令公布
- 一八九二・『万朝報』創刊
- 一八九三・『二六新報』(第一次)創刊
- 一八九四・日清戦争
- 一八九六・横山源之助による下層民に関するレポートの連載開始
- 一八九九・横山源之助著『日本之下層社会』出版
- 一九〇〇・『二六新報』(第二次)再刊
  - 東京市疑獄事件
  - 木下尚江、足尾鉱毒罹災地へ現地取材、社説になる
- 一九〇一・星亨、暗殺される
- 一九〇四・日露開戦の動きに非戦論を展開
  - 反戦小説「火の柱」を連載
- 一九〇六・七月、『毎日新聞』、『東京毎日新聞』に改題

横浜毎日新聞 第一期復刻版概要

体裁
A4判・上製・約二〇、〇〇〇ページ

本体揃価格
八七〇、〇〇〇円〈別冊のみ分売可〉

第一期配本概要

		原本の発行年月	本体価格
第一回	第七巻〜第九巻	●明治七年一月〜一二月	五四、〇〇〇円
第二回	第一〇巻〜第一三巻	●明治八年一月〜一二月	七二、〇〇〇円
第三回	第一四巻〜第一七巻	●明治九年一月〜一二月	七二、〇〇〇円
第四回	第一八巻〜第二〇巻	●明治一〇年一月〜一二月	五四、〇〇〇円
第五回	第二一巻〜第二三巻	●明治一一年一月〜一二月	五四、〇〇〇円
第六回	第二四巻〜*第二六巻	●明治一二年一月〜一二月	五四、〇〇〇円
第七回	第二七巻〜第二九巻	●明治一三年一月〜一二月	五四、〇〇〇円
第八回	第三〇巻〜第三二巻	●明治一四年一月〜一二月	五四、〇〇〇円
第九回	第三三巻〜第三五巻	●明治一五年一月〜一二月	五四、〇〇〇円
第一〇回	第三六巻〜第三八巻	●明治一六年一月〜一二月	五四、〇〇〇円
第一一回	第三九巻〜第四一巻	●明治一七年一月〜一二月	五四、〇〇〇円
第一二回	第四二巻〜第四四巻	●明治一八年一月〜一二月	五四、〇〇〇円
第一三回	第四五巻	●明治一九年一月〜四月	七二、〇〇〇円
	第一巻〜第三巻	●明治三年一二月〜明治五年一二月	
第一四回	第四巻〜第六巻	●明治六年一月〜一二月	五四、〇〇〇円
第一五回	別冊(全三巻)解説(甘利瑾八)・総目次		六〇、〇〇〇円

*第二六巻、明治一二年一一月一八日より『東京横浜毎日新聞』と改題

横浜毎日新聞* 第二期復刻版概要

体裁
A4判・上製・約一七、〇〇〇ページ

本体揃価格
九四〇、〇〇〇円

第二期配本概要

		原本の発行年月	本体価格
第一六回	第四六巻〜**第四八巻	●明治一九年五月〜一二月	六〇、〇〇〇円
第一七回	第四九巻〜第五一巻	●明治二〇年一月〜一二月	八〇、〇〇〇円
第一八回	第五三巻〜第五六巻	●明治二一年一月〜一二月	八〇、〇〇〇円
第一九回	第五七巻〜第六〇巻	●明治二二年一月〜一二月	八〇、〇〇〇円
第二〇回	第六一巻〜第六四巻	●明治二三年一月〜一二月	八〇、〇〇〇円
第二一回	第六五巻〜第六八巻	●明治二四年一月〜一二月	八〇、〇〇〇円
第二二回	第六九巻〜第七二巻	●明治二五年一月〜一二月	八〇、〇〇〇円
第二三回	第七三巻〜第七六巻	●明治二六年一月〜一二月	八〇、〇〇〇円
第二四回	第七七巻〜第八〇巻	●明治二七年一月〜一二月	八〇、〇〇〇円
第二五回	第八一巻〜第八四巻	●明治二八年一月〜八月	八〇、〇〇〇円
第二六回	第八五巻〜第八八巻	●明治二八年九月〜明治二九年四月	八〇、〇〇〇円
第二七回	第八九巻〜第九二巻	●明治二九年五月〜一二月	八〇、〇〇〇円

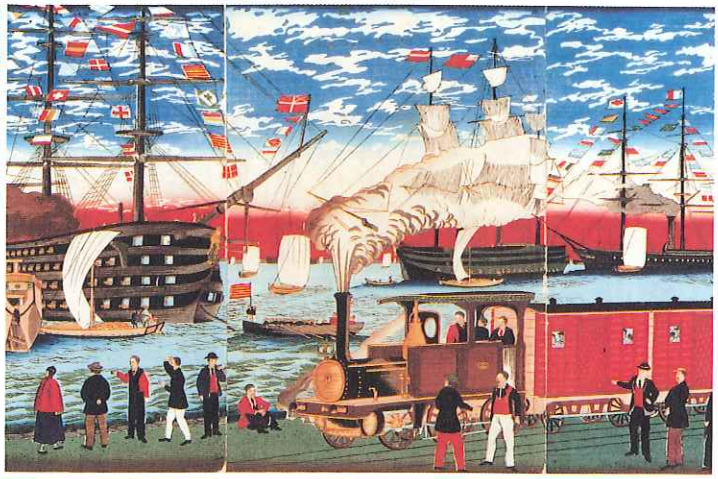
*紙名は『毎日新聞』です。
**復刻版・第46巻巻頭に門奈直樹氏による「解説」が付いております。

横浜毎日新聞

第三期『毎日新聞』復刻版概要

体裁
A4判・上製・約一七、〇〇〇ページ

本体揃価格
一、二四〇、〇〇〇円



横浜海岸鉄道蒸気車図

既刊

第一期—第一巻〜第四五巻・別冊三
（前身紙『横浜毎日新聞』『東京横浜毎日新聞』の明治三年二月〜明治一九年四月分を収録）
本体揃価格＝八七〇、〇〇〇円

第二期—第四六巻〜第九二巻
（明治一九年五月〜明治二九年二月分を収録）
本体揃価格＝九四〇、〇〇〇円

第三期配本予定

	原本の発行年月	配本	本体価格
第一八回—第九三巻〜第九五巻	●明治三〇年一月〜六月	一九九六年四月	六〇、〇〇〇円
第一九回—第九六巻〜第九九巻	●明治三〇年七月〜明治三一年二月	一九九六年七月	八〇、〇〇〇円
第二〇回—第一〇〇巻〜第一〇三巻	●明治三一年三月〜一〇月	一九九六年一〇月	八〇、〇〇〇円
第二一回—第一〇四巻〜第一〇七巻	●明治三一年一一月〜明治三二年六月	一九九七年一月	八〇、〇〇〇円
●配本年度別合計価格　一九九六年度（第一八〜二一回配本）—合計三〇〇、〇〇〇円			
第二二回—第一〇八巻〜第一一〇巻	●明治三二年七月〜一二月	一九九七年四月	六〇、〇〇〇円
第二三回—第一一一巻〜第一一四巻	●明治三三年一月〜八月	一九九七年七月	八〇、〇〇〇円
第二四回—第一一五巻〜第一一八巻	●明治三三年九月〜明治三四年四月	一九九七年一〇月	八〇、〇〇〇円
第二五回—第一一九巻〜第一二二巻	●明治三四年五月〜一二月	一九九八年一月	八〇、〇〇〇円
●配本年度別合計価格　一九九七年度（第二二〜二五回配本）—合計三〇〇、〇〇〇円			
第二六回—第一二三巻〜第一二五巻	●明治三五年一月〜六月	一九九八年四月	六〇、〇〇〇円
第二七回—第一二六巻〜第一二九巻	●明治三五年七月〜明治三六年二月	一九九八年七月	八〇、〇〇〇円
第二八回—第一三〇巻〜第一三三巻	●明治三六年三月〜一〇月	一九九八年一〇月	八〇、〇〇〇円
第二九回—第一三四巻〜第一三七巻	●明治三六年一一月〜明治三七年六月	一九九九年一月	八〇、〇〇〇円
●配本年度別合計価格　一九九八年度（第二六〜二九回配本）—合計三〇〇、〇〇〇円			
第三〇回—第一三八巻〜第一四一巻	●明治三七年七月〜明治三八年二月	一九九九年四月	八〇、〇〇〇円
第三一回—第一四二巻〜第一四五巻	●明治三八年三月〜一〇月	一九九九年七月	八〇、〇〇〇円
第三二回—第一四六巻〜第一四九巻*	●明治三八年一一月〜明治三九年六月	一九九九年一〇月	八〇、〇〇〇円
●配本年度別合計価格　一九九九年度（第三〇〜三二回配本）—合計二四〇、〇〇〇円			

＊第一四九巻（第四二回配本）巻頭には、門奈直樹氏（立教大学教授）による「解説」が付きます。

●本紙の紙名は、明治三年一二月八日（創刊）より明治一二年一一月一六日まで『横浜毎日新聞』、同年同月一八日から明治一九年四月三〇日まで『東京横浜毎日新聞』、同年五月一日から明治三九年六月三〇日まで『毎日新聞』と変遷しております。なお本紙は、現在発行されている全国紙『毎日新聞』とは別のものです。

●「横浜絵」提供——横浜開港資料館

●本カタログ中の表示価格は、全て消費税を含んでおりません。
●弊社は注文制です。お近くの書店にご注文ください。

不二出版
東京都文京区向丘一—二—一二
TEL 〇三（三八一二）四四三三
FAX 〇三（三八一二）四四六四
振替 00160・2・94084

明治三年創刊！近代日本のあけぼのを鮮やかに映し出す、日本最初の日刊新聞

日本近代史・政治史・経済史・社会史・文化史等の研究に必須の基本資料！

横浜毎日新聞

【改題・毎日新聞】

復刻版

全149巻・別冊3

一八七〇（明治三）年十二月～一九〇六（明治三九）年六月を収録

【全巻完結・残部僅少！】 本体揃価格＝2、950、000円＋税

不二出版

■刊行一覧■

第一期配本概要

		原本の発行年月	本体価格
第一回	第七巻～第九巻	●明治七年一月～一二月	―五四、〇〇〇円
第二回	第一〇巻～第一三巻	●明治八年一月～一二月	―七二、〇〇〇円
第三回	第一四巻～第一七巻	●明治九年一月～一二月	―七二、〇〇〇円
第四回	第一八巻～第二〇巻	●明治一〇年一月～一二月	―五四、〇〇〇円
第五回	第二一巻～第二三巻	●明治一一年一月～一二月	―五四、〇〇〇円
第六回	第二四巻～第二六巻	●明治一二年一月～一二月	―五四、〇〇〇円
第七回	第二七巻～第二九巻	●明治一三年一月～一二月	―五四、〇〇〇円
第八回	第三〇巻～第三二巻	●明治一四年一月～一二月	―五四、〇〇〇円
第九回	第三三巻～第三五巻	●明治一五年一月～一二月	―五四、〇〇〇円
第一〇回	第三六巻～第三八巻	●明治一六年一月～一二月	―五四、〇〇〇円
第一一回	第三九巻～第四一巻	●明治一七年一月～一二月	―五四、〇〇〇円
第一二回	第四二巻～第四四巻	●明治一八年一月～一二月	―五四、〇〇〇円
第一三回	第四五巻	●明治一九年一月～四月	―七二、〇〇〇円
	第一巻～第三巻	●明治三年一二月～明治五年一二月	
第一四回	第四巻～第六巻	●明治六年一月～一二月	―五四、〇〇〇円
第一五回	別冊（全三巻）解説（甘利璋八）・総目次		―六〇、〇〇〇円

第二期配本概要

		原本の発行年月	本体価格
第一六回	第四六巻～第四八巻	●明治一九年五月～一二月	―六〇、〇〇〇円
第一七回	第四九巻～第五二巻	●明治二〇年一月～一二月	―八〇、〇〇〇円
第一八回	第五三巻～第五六巻	●明治二一年一月～一二月	―八〇、〇〇〇円
第一九回	第五七巻～第六〇巻	●明治二二年一月～一二月	―八〇、〇〇〇円
第二〇回	第六一巻～第六四巻	●明治二三年一月～一二月	―八〇、〇〇〇円
第二一回	第六五巻～第六八巻	●明治二四年一月～一二月	―八〇、〇〇〇円
第二二回	第六九巻～第七二巻	●明治二五年一月～一二月	―八〇、〇〇〇円
第二三回	第七三巻～第七六巻	●明治二六年一月～一二月	―八〇、〇〇〇円
第二四回	第七七巻～第八〇巻	●明治二七年一月～一二月	―八〇、〇〇〇円
第二五回	第八一巻～第八四巻	●明治二八年一月～八月	―八〇、〇〇〇円
第二六回	第八五巻～第八八巻	●明治二八年九月～明治二九年四月	―八〇、〇〇〇円
第二七回	第八九巻～第九二巻	●明治二九年五月～一二月	―八〇、〇〇〇円

第三期配本概要

		原本の発行年月	本体価格
第二八回	第九三巻～第九五巻	●明治三〇年一月～六月	―六〇、〇〇〇円
第二九回	第九六巻～第九九巻	●明治三〇年七月～明治三一年二月	―八〇、〇〇〇円
第三〇回	第一〇〇巻～第一〇三巻	●明治三一年三月～一〇月	―八〇、〇〇〇円
第三一回	第一〇四巻～第一〇七巻	●明治三一年一一月～明治三二年六月	―八〇、〇〇〇円
第三二回	第一〇八巻～第一一〇巻	●明治三二年七月～一二月	―六〇、〇〇〇円
第三三回	第一一一巻～第一一四巻	●明治三三年一月～八月	―八〇、〇〇〇円
第三四回	第一一五巻～第一一八巻	●明治三三年九月～明治三四年四月	―八〇、〇〇〇円
第三五回	第一一九巻～第一二二巻	●明治三四年五月～一二月	―八〇、〇〇〇円
第三六回	第一二三巻～第一二五巻	●明治三五年一月～六月	―六〇、〇〇〇円
第三七回	第一二六巻～第一二九巻	●明治三五年七月～明治三六年一月	―八〇、〇〇〇円
第三八回	第一三〇巻～第一三三巻	●明治三六年三月～一〇月	―八〇、〇〇〇円
第三九回	第一三四巻～第一三七巻	●明治三六年一一月～明治三七年六月	―八〇、〇〇〇円
第四〇回	第一三八巻～第一四一巻	●明治三七年七月～明治三八年一月	―八〇、〇〇〇円
第四一回	第一四二巻～第一四五巻	●明治三八年三月～一〇月	―八〇、〇〇〇円
第四二回	第一四六巻～第一四九巻	●明治三八年一一月～明治三九年六月	―八〇、〇〇〇円

第一期＝第1巻～第45巻・別冊3　本体揃価8、700、000円

第二期＝第46巻～第92巻　本体揃価9、400、000円

第三期＝第93巻～第149巻　本体揃価1、140、000円

全期合計＝総152冊　本体揃価2、950、000円

表示価格は、全て税別

不二出版
〒113-0023 東京都文京区向丘一-二-一二
TEL ○三(三八一二)四四三三
FAX ○三(三八一二)四四六四
振替 00160-2-94084

2002/4